ボーリング柱状図

調査名	平成16年度標津断層帯調査業務委託
事業・工事名	平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリング№ 16

シート№ 1

ボーリング名	S04-Yo-6	調査位置	標津郡中標津町字養老牛					北緯	43° 34' 19.7"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			調査期間	平成 16年 10月 19日 ～ 16年 10月 21日			東経	144° 44' 15.9"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	主任技師	田邊　謹也	現場代理人	越谷　賢	コア鑑定者	渡辺　良夫・越谷　賢	ボーリング責任者	高橋　雅之
孔口標高	194.06m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	11.20m								

試錐機	鉱研0P-1	ハンマー落下用具	トンビ
エンジン	ヤンマーNFD-13	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	193.66	0.40	0.40		耕作土	黒褐			耕作によって撹乱される。	
	193.25	0.41	0.81		火山灰質シルト質砂	黒褐			礫混り火山灰質砂が挟在。最下部は腐植土。	
1	192.90	0.35	1.16		軽石	橙褐～明			逆級化。火山礫散在。(Km-1f)	
	192.54	0.36	1.52		火山灰質シルト質砂	黄褐褐			再堆積性の火山灰質砂(最上部･最下部)、火山灰?を挟在する腐植土からなる。	
2	191.53	1.01	2.53		軽石	橙褐～明黄灰			軽石の形状･火山礫の含有率から3層に区分される。(Ma-g～i)	
	191.43	0.10	2.63							
3	190.59	0.84	3.47		火山灰	灰			葉理発達。細粒ガラス質。(Ma-j)	
4					火山灰質シルト質砂	褐灰～灰褐			上部はMa-kが挟在する腐植土～腐植質シルト。下部は塊状で亜角～亜円礫が散在。	
	189.29	1.30	4.77		軽石	橙褐～黄褐灰			角～亜角(平均径2～30mm･最大径50mm)が主体。角～亜角の火山礫が散在。最下部は逆級化。(Ma-l)	
5	189.19	0.10	4.87							10/20 5.60 ▽
	188.29	0.90	5.77		火山灰質シル	褐灰			塊状、ローム質。	
6					礫混り火山灰質砂質	褐～褐灰			塊状不淘汰。径2～30mm、所によって径40～60mmの亜円～円礫が散在する。礫種は凝灰岩･安山岩･軽石。	10/19
	187.40	0.89	6.66		シルト質砂礫	灰褐～褐灰			亜角～円礫(径5～50mm)。礫種は安山岩･凝灰岩･軽石。基質は火山灰質シルト質砂。	
7										10/23 7.65 ▽
8	185.53	1.87	8.53		シルト質砂礫	灰褐～褐灰			半固結～未固結。礫種等の性状は上位層とほぼ同質。6.85m付近:礫の一部が配列し、20°で傾斜する。	
9					火山礫凝灰岩	明褐灰			塊状不淘汰。径5～30mmの灰白～明黄灰色軽石、径5～10mmの暗灰～褐色の角～亜角礫が混在する。下位層との層理面は20°で傾斜。(幾品層)	10/20
10										
11	182.91	2.62	11.15							
	182.86	0.05	11.20		凝灰岩	明褐灰			塊状。砂質シルト粒径。	

標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日